

MACF 礼拝説教要旨

2024年11月24日

「主を待ち望む」

詩篇 33 編

13 主は天から見渡し 人の子らをひとりひとり御覧になり

14 御座を置かれた所から 地に住むすべての人に目を留められる。

15 人の心をすべて造られた主は 彼らの業をことごとく見分けられる。

16 王の勝利は兵の数によらず 勇士を救うのも力の強さではない。

17 馬は勝利をもたらすものとはならず 兵の数によって救われるのでもない。

18 見よ、主は御目を注がれる 主を畏れる人、主の慈しみを待ち望む人に。

19 彼らの魂を死から救い 飢えから救い、命を得させてくださる。

20 我らの魂は主を待つ。主は我らの助け、我らの盾。

21 我らの心は喜び 聖なる御名に依り頼む。

22 主よ、あなたの慈しみが 我らの上にあるように

主を待ち望む我らの上に。

クリスマスの前に「待ち望む」ことの大切さを心に留めたいと思います。

「待ち望む」これは「絶望せず、神様に期待し、希望を持ち続ける姿勢を
しっかり持ち続けることです。」

私たちは物質的に豊かな時代を生きているし、お正月も特別なものではなくなりつつ
あるので、なんとなく「楽しみに期待する」という雰囲気や社会全体が失いつつあるのかも
しれません。

でも、神様は私たちに対して「待ち望む」姿勢を求めておられます。

1) 主の目は常にあなたに注がれている

神様は良いわざを高く評価し、罪については心を痛められるのですが、常に神様が
私たちを見ていてくださるのは「祝福し、支援し、支えよう」という思いからです。
砂場で無邪気に遊ぶ子供に向けられているお母さんやお父さんの眼差しを意識し、感

じ取って

みましょう

2) 兵の数、勇士の力、馬の数、は国を救うものではない

それらは、あなたを守り切れるものでもない。

物の存在はありがたいですし、有益ですが、それらのものが私たちの心の奥底にある平安を願う欲求や神様に愛されたいという欲求を満たすものではありません。

3) 主の目は「主を畏れる人、主の慈しみを待ち望む人に注がれ

死と飢えから救い、命を得させてくださる

救い主が必要なのです。

私たちには神様から遣わされた神のひとり子イエス様による「教え」「模範」「犠牲と愛」そして「救い」が必要なのです。

クリスマスは「主を待ち望む」ことを学び実践する最初の大事な日なのだと思います。

そこから始まって、日々、主を待ち望み、日々、主の助けと励ましを待ち望み、

自らの成長と成熟とを期待しながら前に進みたいものです。

YouTube での「MACF 礼拝」はこちらです。

<https://youtu.be/Rlv5Nz3VK4Y>